

にいがた 畜産協会たより

公益社団法人
新潟県畜産協会

新潟市西区山田2310-15
全農にいがた第2ビル内
TEL. 025-234-6781
~6783



第12回全国和牛能力共進会 鹿児島大会 種牛の部 審査の様子

目次

- ◆ 第12回全国和牛能力共進会
鹿児島大会が開催されました！ …… (2)
- ◆ こども霞が関見学デー2022にて
「にいがた畜産女子会」の会員が
紹介されました！ …… (4)
- ◆ 親子料理教室のご紹介
(畜産理解増進事業) …… (5)
- ◆ 金沢競馬場 レース開催レポート …… (6)
- ◆ 新たな「にいがた和牛肥育名人」が
認定されました！ …… (6)
- ◆ 声のコーナー …… (7)
「牛も人間もストレスフリーな牛舎を目指して」
酪農経営 新発田市大友
小野牧場 小野 久栄 さん
- ◆ ちくさん女子の窓 …… (8)
- ◆ 畜産安心ブランド生産農場だより …… (8)
佐渡市：肉用牛中核育成センター
JA佐渡 営農事業部畜産振興課
菊池 敏 課長
- ◆ 編集後記 …… (8)

第12回全国和牛能力共進会 鹿児島大会が開催されました！

10月6日から10日まで、鹿児島県霧島市牧園町の「霧島高原国民休養地周辺」及び南九州市知覧町の「株式会社JA食肉かごしま南薩工場」において、全国の優秀な和牛を一堂に集め、改良の成果や優秀性を競う「全国和牛能力共進会」（主催：公益社団法人全国和牛登録協会）が開催されました。5年に一度開催されるこの大会は今回12回目を迎え、「和牛新時代 地域かがやく和牛力」の開催テーマのもと、41道府県から9つの区に439頭が出品されました。



種牛の部の審査会場の様子。広い会場が満員で、入場制限もしていました！



第2区・第3区の審査を見守る応援団の皆さん

当県からは、雄牛・雌牛の改良成果を月齢別に審査する「種牛の部」において、第2区（若雌の1）に出品された阿賀町の渡辺俊行さんの「はななつみ4の6」が1等賞11席を受賞、第3区（若雌の2）に出品された佐渡市の岡崎敦さんの「しまふく」が2等賞を受賞しました。



審査会場に入場する渡辺さん・はななつみ4の6号（写真左）と岡崎さん・しまふく号（写真右）



また、枝肉の肉質を審査する「肉牛の部」の第8区（去勢肥育牛）に出品された2頭について、長岡市の関克史さんの「怪物君」が優等賞15席を受賞、村上市の遠山幸一さんの「雪2」が1等賞を受賞しました。



肉牛の部のセリ会場の様子。外には催事会場もあり、たくさんの来場者で行列ができていました！

このほか、今大会から高校や農業大学校の生徒・学生を対象とした特別区が新設され、出品された24頭が和牛生産・改良にかかわる取り組みと併せて審査されました。

また、登録事業功労者表彰で佐渡市の古城富久さんが、優良和牛改良組合表彰で阿賀・阿賀町和牛改良組合が表彰されました。

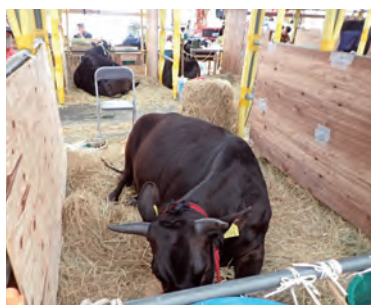
会場では鹿児島県の紹介ブースや畜産関係企業等のPRブース出展、29道府県のブランド牛を試食できるイベント等、多様な催し物が開催されており、畜産関係者のみならず、消費者も来場して大いに賑わっていました。



種牛の部の催事会場の様子。一周するのも一苦労なほどたくさんのブースがありました！

次回開催は5年後の令和9年に北海道で開かれます。これからの5年間で和牛の改良がどのように進むのか楽しみです。

人間もちろんですが、牛も頑張りました。
審査を終えたしまふく号（左）とはななつみ4の6号（右）、お疲れ様でした！



こども霞が関見学デー2022にて 「にいがた畜産女子会」の会員が紹介されました！

8月3日、4日に東京都霞が関にて「こども霞が関見学デー2022」が開催されました。これは各省庁等で子供たちを対象にして、事業説明や職場見学等を通して広く社会を知る体験活動の機会とし、親子のふれあいを深めることを目的とした取組です。このうち、農林水産省にて、女子会の会員である、北陸農政局新潟県拠点の三田晶子さんが「牛乳を配合した“せっけん”を作って日本の食料自給率を考えよう！」というワークショップを実施しました。

冒頭では三田さんから、新潟の農産物には代表的な米のほかにも、野菜や果物、畜産物にうれしいものがたくさんあるとの説明があり、その中で六次産業化に取り組む会員の紹介をしていただきました。



北陸農政局のホームページで、新潟県の畜産業の紹介や会員の紹介動画（YouTube）の視聴、女子会紹介のパンフレットが見られます！



<https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata/chikusan.html>

次に、令和3年3月の女子会活動でお世話になった燕市「アロマティカ・ラボ」の木下和美先生に、会長の神田麻子さんの農場「神田酪農」の牛乳を使ったせっけんづくりを教えてくださいました。本来なら子供たちが取り組むワークショップですが、新型コロナウイルス感染症の影響により当日はライブ配信のみとなったため、事務局の鈴木と佐藤が生徒役としてせっけんづくりを行いました。

農林水産省のYouTubeチャンネル「BUZZMAFF」で当日の配信のアーカイブを視聴できます！



<https://www.youtube.com/watch?v=cEbDn5BQgkU>



最後に勉強タイムがあり、三田さんが乳牛の妊娠期間や、牛乳の消費量、食料自給率について説明しました。一部はクイズ形式ですので、ぜひ皆さんもチャレンジしてみてください。

ワークショップは農林水産省特設ページ「マフ塾」で公開されています。別のワークショップや、他にも面白く勉強になる情報がたくさん紹介されていますので、そちらもぜひご覧ください。

農林水産省 MAFF塾のHPはこちら

https://www.maff.go.jp/j/kids/kodomo_kasumi/2022/



親子料理教室のご紹介（畜産理解増進事業）

地方競馬全国協会の補助を受けて当協会が実施している畜産理解増進事業では、畜産物の消費拡大を図る取組みの一環として、新潟県産畜産物を用いた料理教室を毎年開催しています。

令和3年度からは新潟県畜産振興協議会と共催で、家庭の牛肉消費拡大のため、新潟県の統一和牛ブランド「にいがた和牛」を食材に親子料理教室の形で実施しています。

講師は新潟調理師専門学校の皆様をお願いしており、子供でも楽しむことのできる難易度の、季節に合わせた様々な和牛料理をスタッフの皆様の手厚いサポートの下で調理する開催形式は、参加した皆様から高い評価をいただいています。

今年度も下記のとおりこれまでに2回開催しており、今後も計画通りの開催を予定しています。

参加者の募集は開催のおおよそ一月前から実施しており、2月26日開催の「ひなまつり料理教室」では、2月1日ごろから当協会HP、新潟県HPおよびフリーペーパー等に募集広告を掲載する予定です。

参加ご希望の方はぜひチェックください。

皆様のお申し込みをお待ちしております。

令和4年度親子料理教室開催実績・計画

開催日	タイトル	料理
令和4年 7月3日(日)	七夕料理教室	・冷しゃぶめん ・七夕のオクラ星の肉巻き
9月25日(日)	秋の味覚料理教室	・青椒牛肉絲 ・和牛と季節野菜の中華風ステーキ
10月30日(日)	ハロウィン料理教室	・ハロウィンかぼちゃミートパイ ・牛肉のカップサラダ
令和5年 2月26日(日)	ひなまつり料理教室	未定 (和風料理2品)



青椒牛肉絲
令和4年9月25日開催「秋の味覚料理教室」



和牛と季節野菜の中華風ステーキ
令和4年9月25日開催「秋の味覚料理教室」



秋の味覚料理教室の様子

この料理教室は地方競馬全国協会の補助を受けて、新潟県畜産振興協議会と共催で開催しています。

地方競馬全国協会のホームページ：<https://www.keiba.go.jp/>

新潟県畜産振興協議会運営「おいしい新潟の畜産チャンネル」：

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/2021chikusanchannel/>

(公社)中央畜産会からのお知らせ

畜産映像情報

がんばる!畜産!5

畜産現場の“今”を30分の番組にしました!
映像を各種研修会、セミナーにご活用ください!

配信中の内容: 畜産の最新研究・技術を見る/豚の肉質を中心とした育種改良技術/鶏肉特集第1弾江戸文化を受け継ぐ東京しゃもを大特集/他



◀スマートフォンからはこちら
▼パソコンからはこちらで検索

がんばる畜産



(公社)中央畜産会 経営支援部(情報) TEL03-6206-0846

金沢競馬場 レース開催レポート

去る9月4日（日）、北陸唯一の地方競馬場である、石川県金沢市「金沢競馬場」にて本場開催がありました。当協会は、地方競馬全国協会からの補助を受け、馬事・畜産の振興を図るため、畜産物の普及啓発活動等を実施し、安全安心な畜産物の安定的な提供を目的とした畜産振興事業に取り組んでおります。

当日は、北陸四県の冠レースが行われました。

北陸四県馬事畜産振興協議会で事業計画等の協議を話し合ったあと、観戦させていただきました。

新型コロナウイルス感染症の影響でなかなか現地にて畜産フェアが行えない状況ですが、WEB開催として、馬事畜産振興キャンペーンが行われ、開催日に一定額以上金沢競馬の勝馬投票券を買った方を対象とした畜産物プレゼントキャンペーンが「楽天競馬」および「オッズパーク」で同日開催されました。



金沢競馬場には金沢駅から無料のファンバスが出ています。天気の良いこともあり、たくさんの方々がバスに乗り込んでおられました。

コロナ禍ではありますが、台風の影響で30度を超える暑さにも関わらず、競馬場は大いに賑わいをみせており、コース中央の遊園地ではお子様たちが元気よく遊んでおりました。

暑かったのでパドックではスプリンクラーが活躍しておりました。

馬を見ていたら食堂街から風に乗って美味しそうな焼きそばのソースの香りがしてきました。



競馬場は競馬をする方以外にも馬が好きで馬を見に来られる方、お子様と遊園地やポニー牧場に遊びに来られる方など、いろいろな楽しみ方がある事を知りました。

食堂街も充実しており、今度行った際はお世話になろうと思います。

新たな「にいがた和牛肥育名人」が認定されました！

にいがた和牛推進協議会（会長 花角英世知事）では、会員から「にいがた和牛肥育名人」候補として推薦のあった肥育経営者のうち、認定基準を満たしている経営者を「にいがた和牛肥育名人」に認定し、にいがた和牛の品質の高位平準化や生産振興、販売拡大対策を図っています。

この度、令和元年度に認定した肥育名人について、3年間の認定期間が経過したことから、9月8日に選定委員会を開催し、次の10名を肥育名人に決定しました。

にいがた和牛肥育名人

氏名	住所	氏名	住所
小田由記夫	村上市	津村 岳志	新発田市
山賀 治彦	村上市	田口 正一	長岡市
漆間 平	村上市	関 克史	長岡市
時田 卓	村上市	小澤 成美	南魚沼市
五十嵐正平	新発田市	渡辺 洋一	上越市

○認定期間：令和4年4月1日～令和7年3月31日

詳細は
「にいがた和牛推進協議会」
HPをご覧ください。



<https://niigata-chikusan.jp/files/libs/2126/202209121551371154.pdf>



酪農経営

新発田市
小野牧場 小野 久栄



『牛も人間もストレスフリーな牛舎を目指して』

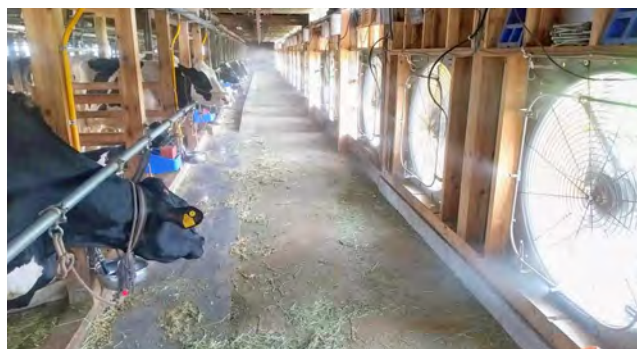
私には小さい頃からの夢が2つありました。1つは教員になること、もう1つは酪農家になることです。学校から帰ると、自転車で近所の牛舎をのぞきに行く日々。ぼーっといつまでも見ていたい・・・小学生ながら日々のストレスから逃れるため、癒しを求めて牛舎に通っていたような気がします。結局、教員になってからも、「酪農家と結婚すれば、夢が両方叶う?」「でも、新潟の酪農家なんていないのかな?」など、考えてはあきらめて・・・の繰り返し。まさかその数年後、出会った主人から「酪農家になるんだ」と言われるとは(笑)



それから約20年。教員を退職し、主人やお義父さんに教わりながら、私の酪農家人生がスタートしました。と同時に、乳牛を増頭するため、牛舎を増改築しました。今年度は導入した15頭の牛が次々出産。改築工事中に子牛が20頭近くまで増えたため、牛舎の外で飼わねばならない時期もありました。吹雪の中での哺乳、寒さがどう影響するか・・・など、心配も多くありましたが、意外にも子牛たちはハッチの中で元気に成長してくれました。また、子牛を外に出すことで、地域の方にも間近で成長を見守っていただく貴重な機会になりました。逆に、初夏の暑くなったときは、みんなすぐ体調不良になってしまいました。どんなに走り回れるスペースがあっても、新鮮な空気があっても、丁寧に世話をしても・・・外の暑さにはかなわず。横断換気にミストも取り入れた涼しい牛舎に戻したとたん、子牛の体調がみるみる回復したのを見て、環境の大切さを実感しました。今は、子牛からのサインを見逃さずに、その日の体調に合わせた哺乳を行うことと、天気予報とにらめっこしながら快適な環境整備に努める日々です。子牛たちがうれしそうに跳ねているのを見ると「今日のお世話はこれでよかったんだな」と幸せな気持ちになります。

ほぼ休みがなく、朝と晩に牛の世話をする・・・公務員時代とは異なる生活パターンにも慣れましたが、やはり体的には大変です。牛舎仕事は力が必要な場面が多く、肩やひざを痛めては通院することもしばしば。そんな中で、私がこれから目指していきたいことは、まずは「健康と体力の維持」です。(1日でも長くこの仕事を楽しみたいから!)そして、痛みが辛いときやどうしたらいいか悩んだときに・・・我慢せずに相談できる「家族間の良好な関係を築くこと」と、「牛と人間との良好な関係も大事にすること」です。牛にとっても人間にとっても居心地の良いストレスフリーな牛舎を目指し、これからもおいしい牛乳を届けていきたいです。

ほぼ休みがなく、朝と晩に牛の世話をする・・・公務員時代とは異なる生活パターンにも慣れましたが、やはり体的には大変です。牛舎仕事は力が必要な場面が多く、肩やひざを痛めては通院することもしばしば。そんな中で、私がこれから目指していきたいことは、まずは「健康と体力の維持」です。(1日でも長くこの仕事を楽しみたいから!)そして、痛みが辛いときやどうしたらいいか悩んだときに・・・我慢せずに相談できる「家族間の良好な関係を築くこと」と、「牛と人間との良好な関係も大事にすること」です。牛にとっても人間にとっても居心地の良いストレスフリーな牛舎を目指し、これからもおいしい牛乳を届けていきたいです。



畜産安心ブランド生産農場だより

佐渡市：肉用牛中核育成センター

J A 佐渡 営農事業部畜産振興課
課長 菊池 敏

JA佐渡の事業の1つに肉用牛中核育成センター（和牛センター）があります。この施設は、昭和56年度に肉用牛集約生産基地育成事業を活用し建設されました。

当初は、地域の肉用牛生産集団の育成を図るため中核的繁殖集団施設として整備された施設で、飼育頭数130頭が収容可能です。現在は肥育センターとして佐渡生まれの和牛を肥育して島外へ出荷しています。

飼育頭数は70頭前後を飼育し年間の出荷頭数は30頭超の出荷に取り組み島内外の店舗で取り扱いされています。「佐渡牛」ブランドの確立を目指して年間出荷頭数40頭以上を目標として、島内の家畜市場から素牛導入をはじめ、大型和牛繁殖支援施設（CBS）から肥育素牛を導入し規模拡大に取り組んでいます。

肥育管理において、毎月の発育指導巡回を通し肥育ステージに沿った管理指導を行う事で、発育改善の見直しを早期に取り組み事が出来ます。また、肥育牛に必要な稲わらは、全量地場産の稲わらを給与するため、耕種農家と連携して稲わらの生産に取り組み、島内業者へ収穫作業を委託して稲わらの収集に取り組んでいます。年によって天候に左右され必要収量の確保が大変な時もありますが、海に囲まれた佐渡産稲わらはミネラルが豊富で非常に嗜好性が良く肥育牛の発育に欠かせない粗飼料の1つです。良質な肉質に加え上品な脂質が期待できます。

畜産安心ブランド認定農場として、多くの方々へ安全・安心に食して頂ける様、衛生面においても予防措置を徹底し疾病の感染リスクを抑え費用面での軽減に努めています。

昨今の畜産を取り巻く環境は、未だにコロナ感染の影響が大きく、飼料価格の高騰をはじめ輸入飼料・資材の仕入れが不安定な状況が続いています。また、牛肉需要も低迷し続けており飼育管理・経営収支を維持する事が大変ですが、消費者に安心して食べて頂ける牛肉生産を今後も尽力を注ぎ取り組んでいきたいと思ひます。



ちくさん女子の窓

にいがた岩船農業協同組合：高橋 彩咲

高校生までは動物がこわくて、散歩中の犬や猫を見かけると逃げてしまうくらい「畜産女子」とは真逆でした。大学生で始めた搾乳や競馬場でのアルバイトを切掛けに、仕事仲間として牛や馬に慣れ、次第に犬や猫をかわいいと感じるようになり、遂には自分でリクガメを飼育し始めるまでになりました。

動物好きとしては大分遅咲きなので、日々彼等を大切に思い共に生きてきた畜産農家や、女子会の先輩方、関係機関の方々へは強い尊敬と憧れがあります。今はJA畜産担当として、少しでも牛や農家さんを支える一人になりたいと、精進の日々です。

最後になりますが、当地域で大切に育てられた「にいがた和牛村上牛」、皆さんの特別な日や何でもない日に是非手に取って頂けると嬉しいです！

写真はペットのロシアリクガメの食事中にカメラを向けて嫌がられた時です↓



編集後記

コロナ禍の影響は続いています、感染症対策を取った上での研修会やイベントが開催されるようになりました。やはり現地に行き、様々な地域の方と直接交流するのは勉強になりますね。今後は以前のように、広く交流できる機会が増えてほしいものです。

（編集担当：佐藤）